

ジョーシン 2019 (高校教科「情報」シンポジウム 2019 秋) によせて

和田 勉 (長野大学)

(情報処理学会情報処理教育委員会 初等中等教育委員会委員長・情報入試委員会委員)

長年開催してきているこのシンポジウムは「高校教科「情報」シンポジウム」という名称だが、内部では通称の「ジョーシン」と呼びならわしている。最初のころは名前通り高校の共通教科情報科や専門教科情報科に関する学習指導要領や学校現場をテーマにしていたが、その後は年を重ねるにつれ、名称にあまりこだわらずに初等中等情報教育に関して大事なテーマをそのつど扱っている。

今回は高校情報科に関する大学入試をテーマとしている。高校情報科入試は、先進的な大学では以前から行われているが、今までのセンター試験に変わる大学入学共通テストにおいて実施が期待されている。

同教科はいままでのセンター試験では実施されていなかった。関係の深い「情報関係基礎」は以前から実施されていたものの、枠組みとしては基本的には高校の専門学科で学ぶ内容を対象としたものであり、また多くの大学学部に入學するのに必要な「数学Ⅱ・数学B」などとのうち一科目しか解答できないためもあり、受験者はわずかだった。

まだ大学入試センターからの正式発表はないものの、さまざまな材料からは、2025年度試験から共通教科情報科のうち「情報Ⅰ」に関して実施されることが期待されている。それが多くの大学学部において入学に要求される科目となるかどうかはまだわからないが、ともかく大きな前進ではある。

高校共通教科情報科を入試にとりいれることは「望ましい形の情報教育が受験を目的としたものにゆがめられてしまう」という懸念も以前から言われており、実際それもある程度は避けがたいのだろう。しかし、高校とりわけ多くの生徒が難関大学への入学をめざすような高校においては、受験に無関係の教科科目の学習はどうしても二の次にされてしまうことが現実である。(もちろんそれは必ずしも現場の先生方を責めるわけにはいかず、社会的な圧力・風潮などからやむをえずということもあるだろう。) 共通教科情報科の入学試験が共通テストで実施され、それが多くの大学学部に入學するのに必須となることによって、将来の「情報社会を生きる市民」である高校生たちが、より充実した望ましい形の情報教育を受けて大学あるいは社会に進むことが期待される。我々もそれをめざして情報処理学会という枠組みを使いながら様々な努力をしている。

なおこれまでのいきさつから、本シンポジウムの主催は初等中等教育委員会およびその上部機関である情報処理教育委員会だが、情報処理教育委員会内で情報分野の入試に関することを管轄しているのは初等中等教育委員会ではなく情報入試委員会であり、今回は内容的には全面的に情報入試委員会によるものである。といっても両委員会間には、私を含めて兼務する委員が多数に上る。このため、たとえば今回とりあげる高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材へのとりくみに関しても、自然に密接に連携して行なっていることを付記する。